臨床心理学

解説＋穴埋め確認

この資料の使い方

・解説ページで重要語と関係を確認する
・次の穴埋めページで理解を確認する
・国試では「名称」と「特徴」の対応が問われやすい

学習範囲

・心理検査
・心理学者・心理療法
・記憶・防衛機制・心理用語

学習の基本構造

臨床心理学の国試対策は、細かな丸暗記より「分類」と「対応関係」を先に押さえる。

① 分類で覚える

・心理検査は「何を調べるか」「どの方法か」で整理する
・心理療法は「誰が」「何を重視したか」を対応させる

② 事例で考える

・防衛機制は短い場面とセットで覚える
・転移・逆転移は「誰の感情か」を確認する

③ 穴埋めで確認する

・空欄は重要語に限定する
・選択肢を手がかりにし、解説ページへ戻って確認する

④ 最後に国試問題へつなげる

・問題文のキーワードから分類を判断する
・「似た検査」「似た療法」を取り違えない

この資料は、事前学習・自主学習で使えるように、解説ページと確認ページを交互に配置している。

性格検査の分類

質問紙法・投影法・作業検査法は、国試で最も基本となる分類である。

分類	特徴	代表例
質問紙法	質問項目に回答し、性格傾向や症状を数量化する。	YG性格検査、MMPI、CMI、TEG（東大式エゴグラム）
投影法	あいまいな刺激への反応から、内面や葛藤を理解する。	ロールシャッハテスト、TAT、P-Fスタディ、SCT、バウムテスト
作業検査法	一定の作業を行わせ、作業量・変動・疲労などから特徴をみる。	**内田クレペリン検査**

TEGは「東大式エゴグラム」。エゴグラムで自我状態の傾向をみる質問紙法である。

性格検査の分類

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　質問紙法　／　投影法　／　作業検査法

1）MMPIやTEGのように、質問項目への回答をもとに評価する方法は（　　）である。

2）ロールシャッハテストやTATのように、あいまいな刺激への反応をみる方法は（　　）である。

3）内田クレペリン検査のように、一定の作業過程から特徴をみる方法は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

知能検査・認知機能検査

対象年齢や目的に応じて、検査名を整理する。

検査	主な対象・目的	押さえるポイント
WAIS	**成人の知能評価**	成人用ウェクスラー式知能検査。言語理解・知覚推理などを評価する。
WISC	**児童の知能評価**	児童用ウェクスラー式知能検査。発達支援や教育場面でも用いられる。
WPPSI	**幼児の知能評価**	幼児用ウェクスラー式知能検査。
MMSE／HDS-R	認知機能のスクリーニング	認知症などの簡易評価として用いられる。
RCPM	**非言語性の推理能力**	言語の影響が比較的少ない。高齢者や失語症例で使いやすい。

WAIS・WISC・WPPSIは「対象年齢」の違いで整理すると覚えやすい。

知能検査・認知機能検査

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　WAIS　／　WISC　／　MMSE　／　RCPM

1）成人の知能評価に用いられるウェクスラー式知能検査は（　　）である。

2）児童の知能評価に用いられるウェクスラー式知能検査は（　　）である。

3）認知症などの簡易スクリーニングとして用いられる検査は（　　）である。

4）非言語性の推理能力をみる検査として用いられるのは（　　）である。

空欄を埋めなさい。

よく出る高次脳機能検査

前頭葉機能・注意機能・構成能力を分けて整理する。

検査	主にみる機能	特徴
TMT	**注意機能・遂行機能**	Part Aは数字を順に結ぶ。Part Bは数字と文字を交互に結び、切り替えを要する。
WCST	**前頭葉機能・概念転換**	分類ルールを推測し、状況に応じて方略を変える力をみる。
ベンダー・ゲシュタルト法	視覚運動統合・構成能力	図形模写を通して、脳器質的障害などを評価する。
コース立方体組み合わせテスト	**動作性知能・構成能力**	積木を用いて図柄を構成する。

TMTとWCSTはいずれも前頭葉機能に関係するが、TMTは注意の切り替え、WCSTは方略転換を押さえる。

高次脳機能検査

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　TMT　／　WCST　／　ベンダー・ゲシュタルト法　／　コース立方体

1）数字や文字を順に結び、注意機能や切り替えをみる検査は（　　）である。

2）分類ルールの変化に応じて方略を転換できるかをみる検査は（　　）である。

3）図形模写を通して、視覚運動統合や構成能力をみる検査は（　　）である。

4）積木を用いた構成課題で、動作性知能をみる検査は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

投影法の代表検査

投影法は、あいまいな刺激への反応から心理的特徴を理解する。

検査	刺激・課題	押さえるポイント
ロールシャッハテスト	**インクのしみ**	何に見えるかを答える。代表的な投影法。
TAT	**人物などが描かれた絵**	絵を見て物語を作る。主題統覚検査。
P-Fスタディ	**欲求不満場面の絵**	場面に対する反応から、攻撃性や葛藤処理をみる。
SCT	**未完成の文章**	文章を完成させ、自己像・対人関係・感情などを把握する。
バウムテスト／HTP	**木・家・人の描画**	描画から内面や自己像を理解する。

TATは「主題統覚検査」。絵画統合検査ではない点に注意する。

投影法の代表検査

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　ロールシャッハテスト　／　TAT　／　P-Fスタディ　／　SCT

1）インクのしみを見て「何に見えるか」を答える検査は（　　）である。

2）絵を見て物語を作る検査で、主題統覚検査とも呼ばれるのは（　　）である。

3）欲求不満場面に対する反応をみる検査は（　　）である。

4）未完成の文章を完成させる検査は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

心理学者とキーワード①

人物名と代表的な理論・技法を対応させる。

人物	キーワード	覚えるポイント
フロイト	無意識・自由連想法・防衛機制	精神分析療法の祖。意識されない心的過程を重視した。
ユング	普遍的無意識・象徴・夢分析	集合的・象徴的な心の働きを重視した。
ロジャーズ	**来談者中心療法**	共感的理解・無条件の肯定的関心・自己一致が重要。
スキナー	**オペラント条件づけ**	行動の結果によって、その行動の頻度が変化する。

まずは「人物名→キーワード」を一対一で押さえる。

心理学者とキーワード①

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　フロイト　／　ユング　／　ロジャーズ　／　スキナー

1）無意識や自由連想法、防衛機制と関係が深い人物は（　　）である。

2）普遍的無意識や象徴、夢分析と関係が深い人物は（　　）である。

3）来談者中心療法を提唱した人物は（　　）である。

4）オペラント条件づけと関係が深い人物は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

心理学者とキーワード②

行動療法・発達理論・リラクセーション技法を整理する。

人物	キーワード	覚えるポイント
ウォルピ	系統的脱感作法・不安階層表	不安を段階づけ、リラクセーションと組み合わせて克服を図る。
シュルツ	**自律訓練法**	自己暗示を用いたリラクセーション法。重感・温感などを利用する。
ピアジェ	**知能の発達段階**	感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期。
エリクソン	**心理社会的発達段階**	発達課題を、対になる概念で整理した。青年期は同一性。

ウォルピ＝不安階層表、シュルツ＝自律訓練法、ピアジェ＝認知発達、エリクソン＝発達課題。

心理学者とキーワード②

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　ウォルピ　／　シュルツ　／　ピアジェ　／　エリクソン

1）系統的脱感作法や不安階層表と関係が深い人物は（　　）である。

2）自律訓練法を創始した人物は（　　）である。

3）知能の発達段階を提唱した人物は（　　）である。

4）心理社会的発達段階を提唱した人物は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

心理療法の基本整理

心理療法は、創始者・重視する考え方・代表的技法を対応させる。

療法	中心となる考え方	代表的なキーワード
精神分析療法	無意識の葛藤を理解し、洞察を深める。	自由連想法、転移、防衛機制、フロイト
来談者中心療法	クライエントの自己成長力を重視する。	共感的理解、無条件の肯定的関心、ロジャーズ
行動療法	不適応行動を学習理論に基づき修正する。	条件づけ、系統的脱感作法、強化
認知行動療法	認知・感情・行動の関係に注目する。	自動思考、認知再構成、行動活性化

国試では「療法名」と「キーワード」の組み合わせで問われることが多い。

心理療法の基本整理

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　精神分析療法　／　来談者中心療法　／　行動療法　／　認知行動療法

1）無意識の葛藤や自由連想法、転移を重視する療法は（　　）である。

2）共感的理解や無条件の肯定的関心を重視する療法は（　　）である。

3）学習理論に基づいて不適応行動を修正する療法は（　　）である。

4）認知・感情・行動の関係に注目する療法は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

特殊な心理療法

日本で発展した療法や、投影的な技法を整理する。

療法	特徴	押さえるポイント
森田療法	不安や症状をあるがままに受け入れ、建設的行動へ向かう。	絶対臥褥期、軽作業期、作業期、社会生活準備期。
内観療法	身近な他者との関係を振り返り、自己洞察を深める。	「してもらったこと」「して返したこと」「迷惑をかけたこと」。
箱庭療法	砂箱の中に玩具を配置し、内面を表現する。	心理療法であり、投影法的側面もある。
自律訓練法	自己暗示を用いて心身の緊張を緩める。	シュルツが創始。リラクセーション法。

森田療法と内観療法は、日本発の心理療法として整理しておく。

特殊な心理療法

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　森田療法　／　内観療法　／　箱庭療法　／　自律訓練法

1）絶対臥褥期から軽作業期、作業期へ進む心理療法は（　　）である。

2）身近な他者との関係を振り返り、自己洞察を深める療法は（　　）である。

3）砂箱の中に玩具を配置して内面を表現する療法は（　　）である。

4）シュルツが創始した自己暗示を用いるリラクセーション法は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

記憶の分類①

記憶は、言葉で表現できるかどうかで大きく分けられる。

分類	内容	具体例
陳述記憶	言葉で説明できる記憶。	昨日の出来事、知識、言葉の意味。
エピソード記憶	自分が経験した出来事の記憶。	旅行に行った、授業を受けた、食事をした。
意味記憶	一般的な知識や言葉の意味に関する記憶。	東京は日本の首都、鉛筆は書く道具。
非陳述記憶	言葉で説明しにくく、行動に現れる記憶。	自転車の乗り方、技能、条件づけ。
手続き記憶	反復練習により体で覚える記憶。	箸の使い方、タイピング、楽器演奏。

陳述記憶＝言葉で説明できる。非陳述記憶＝体で覚える・行動に現れる。

記憶の分類①

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　陳述記憶　／　エピソード記憶　／　意味記憶　／　手続き記憶

1）言葉で説明できる記憶をまとめて（　　）という。

2）自分が経験した出来事に関する記憶は（　　）である。

3）知識や言葉の意味に関する記憶は（　　）である。

4）自転車の乗り方のように、体で覚えた記憶は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

記憶の分類②

短時間の保持、予定の記憶、先行刺激の影響を整理する。

用語	内容	具体例
ワーキングメモリー	短時間保持しながら、その情報を使って作業する記憶。	暗算、会話中に相手の話を保持する。
展望記憶	将来行う予定や行動に関する記憶。	帰宅後に電話する、薬を飲む。
プライミング	先行する刺激が、その後の認知や反応に影響する現象。	「ミカン」「バナナ」の後に「イ__ゴ」を見ると「イチゴ」と答えやすい。
短期記憶	一時的に情報を保持する記憶。	電話番号を一時的に覚える。

ワーキングメモリーは「保持する」だけでなく、その情報を使って処理する点が重要である。

記憶の分類②

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　ワーキングメモリー　／　展望記憶　／　プライミング　／　短期記憶

1）短時間保持した情報を使って作業する記憶は（　　）である。

2）将来行う予定や行動に関する記憶は（　　）である。

3）先行する刺激が後の認知や反応に影響する現象は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

防衛機制①

防衛機制は、不安や葛藤から自我を守る無意識的な心の働きである。

防衛機制	意味	短い例
合理化	もっともらしい理由をつけて、自分を納得させる。	不合格を「問題が悪かった」と説明する。
知性化	感情を避け、理屈や知識で処理しようとする。	不安な検査結果を、数値や論文の話だけで考える。
抑圧	受け入れがたい記憶や感情を無意識に押さえ込む。	つらい出来事を思い出せない。
否認	受け入れがたい現実を認めない。	病気の診断を受けても「自分は病気ではない」と言う。

合理化は「理由づけ」、知性化は「理屈で感情から距離をとる」と整理する。

防衛機制①

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　合理化　／　知性化　／　抑圧　／　否認

1）もっともらしい理由をつけて、自分を納得させる防衛機制は（　　）である。

2）感情を避け、理屈や知識で処理しようとする防衛機制は（　　）である。

3）受け入れがたい記憶や感情を無意識に押さえ込む防衛機制は（　　）である。

4）受け入れがたい現実を認めない防衛機制は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

防衛機制②

似ている用語は、感情や欲求の向かう方向で区別する。

防衛機制	意味	短い例
反動形成	本心とは反対の態度や行動をとる。	嫌いな相手に、過度に親切にする。
置き換え	本来の対象に向けにくい感情を、別の対象へ向ける。	注意された後、家族に強く当たる。
投影	自分の感情や欲求を、相手がもっているように感じる。	自分が相手を嫌っているのに「相手が自分を嫌っている」と思う。
昇華	社会的に受け入れられる形で欲求を発散する。	攻撃性をスポーツや創作活動に向ける。

置き換え＝対象が変わる。投影＝自分の感情を相手のものとして感じる。

防衛機制②

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　反動形成　／　置き換え　／　投影　／　昇華

1）本心とは反対の態度や行動をとる防衛機制は（　　）である。

2）本来の対象に向けにくい感情を、別の対象へ向ける防衛機制は（　　）である。

3）自分の感情を、相手がもっているように感じる防衛機制は（　　）である。

4）欲求を社会的に受け入れられる活動へ向ける防衛機制は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

よく出る心理用語

転移・逆転移・退行は、誰に何が起きているかで整理する。

用語	意味	臨床上のポイント
転移	患者・対象者が、治療者に向ける私的な感情。	過去の重要な対人関係が、治療者との関係に現れることがある。
逆転移	治療者が、患者・対象者に向ける私的な感情。	治療者自身の生活歴や感情が関係するため、自己洞察が重要。
退行	ストレスに対して、より低い発達段階の思考・感情・行動を示す。	甘え、依存、幼児的な反応などとして現れることがある。

転移＝患者から治療者へ。逆転移＝治療者から患者へ。向きを間違えない。

よく出る心理用語

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　転移　／　逆転移　／　退行

1）患者・対象者が治療者に向ける私的な感情は（　　）である。

2）治療者が患者・対象者に向ける私的な感情は（　　）である。

3）ストレスに対して、より低い発達段階の行動を示すことは（　　）である。

空欄を埋めなさい。

国試問題での考え方

臨床心理学は、問題文のキーワードから分類や人物を判断する。

問われ方	見るポイント	例
検査名を選ぶ	方法・対象・目的を確認する。	成人の知能評価→WAIS、投影法→ロールシャッハ。
人物名を選ぶ	キーワードと創始者を対応させる。	来談者中心療法→ロジャーズ、系統的脱感作法→ウォルピ。
防衛機制を選ぶ	場面の中で、感情や欲求がどう処理されているかを見る。	注意された相手ではなく家族に当たる→置き換え。
心理用語を選ぶ	誰の感情か、どの方向に向いているかを確認する。	患者から治療者へ→転移。治療者から患者へ→逆転移。

迷ったときは、用語の「定義」ではなく、問題文の中の具体的な手がかりに戻る。

総合確認

解説を確認したうえで、空欄を埋めましょう。

選択肢：　WAIS　／　ロジャーズ　／　置き換え　／　転移

1）成人の知能評価に用いられるウェクスラー式知能検査は（　　）である。

2）来談者中心療法を提唱した人物は（　　）である。

3）注意された相手ではなく、別の相手に怒りを向ける防衛機制は（　　）である。

4）患者が治療者に私的な感情を向ける現象は（　　）である。

空欄を埋めなさい。

解答一覧①

スライド4〜18の穴埋め解答を確認する。

スライド	解答
4	1）質問紙法　2）投影法　3）作業検査法
6	1）WAIS　2）WISC　3）MMSE　4）RCPM
8	1）TMT　2）WCST　3）ベンダー・ゲシュタルト法　4）コース立方体
10	1）ロールシャッハテスト　2）TAT　3）P-Fスタディ　4）SCT
12	1）フロイト　2）ユング　3）ロジャーズ　4）スキナー
14	1）ウォルピ　2）シュルツ　3）ピアジェ　4）エリクソン
16	1）精神分析療法　2）来談者中心療法　3）行動療法　4）認知行動療法
18	1）森田療法　2）内観療法　3）箱庭療法　4）自律訓練法

解答だけで終わらず、解説ページへ戻って「なぜそうなるか」を確認する。

解答一覧②

スライド20〜30の穴埋め解答を確認する。

スライド	解答
20	1）陳述記憶　2）エピソード記憶　3）意味記憶　4）手続き記憶
22	1）ワーキングメモリー　2）展望記憶　3）プライミング
24	1）合理化　2）知性化　3）抑圧　4）否認
26	1）反動形成　2）置き換え　3）投影　4）昇華
28	1）転移　2）逆転移　3）退行
30	1）WAIS　2）ロジャーズ　3）置き換え　4）転移

以上で、臨床心理学の頻出事項を分類・対応関係・事例から確認できる。